

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 6 年 5 月 16 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490201526		
法人名	株式会社 ケア21		
事業所名	グループホームたのしい家安佐南		
所在地	広島市安佐南区祇園6丁目12-31 (電話) 082-850-2221		
自己評価作成日	令和6年4月16日	評価結果市町受理日	令和6年7月17日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3490201526-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和6年5月9日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>1Fフロアに関しては重度の方対応可能なフロアで重度の方でもグループホームで地域との関りを持ち家庭的な生活をおくることができる。食事についても毎日手作りを提供し29日は肉の日でそれに沿った食事を考える又は各御利用者に意見や写真を見て選んで頂く。その他お楽しみ食事等普段と違った食事、食事は年齢関係なく楽しみの一つになるのでそこを意識して支援してま</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>令和21年7月に開設し、事業所独自の地域交流を行っている。玄関に「駄菓子屋」を常設し隣接する保育園帰りの親子や小学生が買い物に来ており、認知症の理解を深める機会や地域から信頼される事業所として取り組んでいる。食の支援として食事は3食手作りで、毎月「肉の日」を設け、利用者と「お楽しみ食事会」のメニューを決める等、多様な食支援に努めている。重度の方対応や重度化の予防を目指し、リフト浴設置・3ヶ所の広いトイレ・歩行練習が出来る長い廊下を活用し、医療関係者との円滑な連携体制を構築しながら、家族と共に重度の方でも「居心地の良い生活」に取り組んでいる。身体拘束防止や終末期ケア等の研修は、職員の知識向上だけでなく人間性向上を意識した内容とし、職員同士の「ほめカード」の効果も活かし、利用者・職員同士も相手を尊重し合い、理念「楽笑」の実践に取り組んでいる。</p>

自己評価	外部評価	項目(ユニット1)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	感染症対策は継続しているがようやく緩和してきて外に散歩すること等で近所の方々とあいさつ等少し交流はできる。	毎日の朝礼で法人の方針・事業所の理念を唱和し、年2回、管理者と共に事業所ビジョンの実践の進捗状況を振り返っている。管理者は職員にアドバイスする際、理念である家庭的な雰囲気作りの重要性を伝えながら「楽笑」を目指し、理念の共有と実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	外部のイベントに参加等はあまりできないが施設玄関に駄菓子屋を開いており隣の保育園の親子連れや小学生等が買い物に来てくださりその方々のご利用者の関り、交流はできている。	事業所の玄関に「駄菓子屋」を常設し、親子連れや子供が買い物に来ている。また利用者の作品を保育園に贈るなど、地域とのつきあいを工夫している。回覧板で地域行事などの情報を知り、利用者として「とんど」見学に行っている。今後は地域ボランティアの受け入れを検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	上記のように小学生や親子連れが来られた時に認知症に関してやグループホームがどういうところなのかをお話して少しでも知って頂けるように努力している。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	地域包括支援センターの方、民生委員、病院、薬局の方など参加して頂き様々な分野の方々が集まることで多様な情報収集ができ、又各自意見も徴収して事業所単体だけでなくかかわりがある方々と一緒によりよい施設作りが出来るように支援している。	運営推進会議では多方面から参加があり、事業所の様子・ヒヤリハット・事故報告を分かり易く伝え、質問など活発な意見交換が行われている。薬剤師から内服支援の内容を組み入れるなど会議内容を工夫したり、地域交流の具体案やボランティア情報を得ており、事業所の運営に繋げている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	行事の開催等で確認の電話や、やりたいことを伝えそこでより良い助言を頂けている。	市町担当者に書類や処遇などに関して随時、相談をしている。運営推進会議に毎回、地域包括支援センター職員の参加があり、地域と繋がる情報やボランティア等の情報を得ている。薬局で行われた認知症サポーター養成講座の手伝いを行うなど、日頃から市町との協力関係に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目(ユニット1)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束適正化委員会も運営推進会議毎に開催している。又身体拘束にあたる行為を職員全員が理解しなければならない点を含め年間研修スケジュールと参照して研修も実施している。	2か月毎に身体拘束適正化委員会を開催し管理者・副主任を中心に、不適切な対応、或いは虐待に発展する恐れが起きていないか、時には事例を設定し代替案や言い換えなど利用者本位で検討を重ねている。座学研修・動画研修を活用し、スピーチロックを含め身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている。	身体拘束と同様施設系は虐待防止することが大切で職員間でも注意し合える職場環境作りと知識を構築していき、支援方法も悩む職員もいるので管理者に相談してより良い支援を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度を利用されている方もいるので管理者、職員共に理解してよりよい支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	専門的なことになると中々理解が難しいと思うのでご家族と話す機会を持ちその都度わからないことがないか確認するようにし誰でも分かりやすいように例を挙げる等できるだけ理解できるように説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族面会時等管理者や職員がご家族とコミュニケーションを図り、ご利用者の生活状況を説明、理解して頂いた上でご家族より生活の上での要望をお聞きし可能な限りご家族とご利用者が満足いくように図っている。	毎月、家族に近況の手紙や写真を郵送し、面会時などに家族から意見や要望を聴いている。大人数での面会の希望があった時、相談室を利用するなど、柔軟に対応した例がある。年に1回、本社から家族満足度アンケートを実施し意見・要望を表せる機会を設けている。	

自己評価	外部評価	項目(ユニット1)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員とは面談等定期的に行い立場関係なく皆の意見を集約し少しでもよりよい運営ができるようにチームケアを意識して支援している。	管理者は年2回の個人面談だけでなく、日頃から意見や提案を直接、聴くよう努めている。副主任・ケアマネジャーと検討し、具体的な介助方法など全体会議で話し合っている。発言が控えめな職員から事前に意見を聴く事もあり、管理者はチームケアに繋がるよう一人ひとりの意見を聴いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	法人規模が大きいので個々で給与水準等変更は難しいが、ほめカードというものがいいところを見つけて手紙のようなものを渡している。勤務時間の調整や残業等個々の要望を理解し反映している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	誰もがリーダーになれるという経営理念もあり研修や知識向上できる環境も提供し介護だけでなく人間性も向上できるように研修過程も築けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	同業者との関りはあまり持っていないが運営推進会議等相互参加するなど相乗効果できるように取り組みを考えている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前のアセスメントにて本人やご家族のご要望を事前に聞き取り入居において不明な点を説明し安心して入居できるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目(ユニット1)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	上記同様で、利用開始から利用中ももちろん入居においてわからないことも多々あると思うのでご家族とコミュニケーションをとりながらご本人が安心して過ごせるように支援しご本人の生活も伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	事前にどのように生活してほしいかを共有する。又ご本人の意思疎通が難しい場合はご家族の意志を尊重しながら生活できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	グループホームにおいては共同生活なので職員とご入居者が家庭的な生活を送ることが大事。介護しているという感覚ではなく対等な関係性を保ち敬意をもちながら接することを意識している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族間の関係性は他者にはできないことなので入居されたらご本人、ご家族、施設共同で支えあい少しでも家族に近い存在になれるように関係性を構築している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	例えば入居前まで通っていたいきつけの場所（美容室等）を継続して通える環境作り、又馴染みの人との関りを面会等通して継続するなど関係性を入居して途絶えない様に支援している。	職員は、利用者の要望で家族への電話や手紙など円滑に届くように支援し、友人の面会時には、再来に繋がるよう対応をしている。共通に知っている馴染みの桜名所や観光地など話題にし、利用者と懐かしむこともある。家族協力にて馴染みの場所に外出が可能となるよう支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目(ユニット1)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	9名のご入居者各々個性がありますが関わり合い交流することで生きがいも生まれるのでそこは意識して支援している。又基本的にはフロアで過ごす方が多いので一緒に作業したり話したり共に生活していることを大事にできるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	入院して退居になる方等必要に応じて状況確認し今後の支援先等の提案をしてご家族も安心できるようにしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	基本的にはご本人の意向を理解して支援している。状況に応じて難しい状況、施設で対応が困難な時はご本人、ご家族と協議の元より良い策を提案させて頂きその時のベストな生活ができるように支援している。	本人はどのような生活を送りたいのか、常に一定ではない場合もあるが、その都度、利用者の思いを受け止め対応に努めている。意向や思いは連絡ノート・個別ノートで共有し、時にはカンファレンスで本人本位に検討し、介護計画の作成に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	事前面談にて生活歴等の把握には努めている。その情報の元施設でできることを職員間やご家族と話し合い施設生活でもできることを把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ご本人の残存機能を継続的に活かせるようにしている。少なくとも介護側ができないと決めつけずに少しでもできる事を日々お声掛けしている。		

自己評価	外部評価	項目(ユニット1)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>担当者会議はもちろんその時だけでなく日々課題や支援方法をカンファレンス等で話し合い状況に応じて臨時カンファレンスを開き早期に解決できるように努めている。</p>	<p>計画作成者は本人家族の意向を把握し職員から情報を収集し、関係者とのカンファレンスで支援方法を具体的に検討し計画書を作成している。食事はカボチャや大根を軟く煮るなど家族にも伝わり易い計画書を心掛け、状況変化時の入浴方法を職員と検討する等、現状に即した計画書作成に努めている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の申し送りで情報共有し、細かなことも記録参照し、ケアマネジャーと協議し必要に応じてプランの変更やよりよい支援に繋げている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>ケアにおいては固執せず、状況に応じて変更している。日々状況変化が生じるのでその時にどう対応するか職員全員が対応できるように取り組んでいる。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域資源の活用は地域の方や地域包括支援センター等、様々な分野の方からの情報で把握しご利用者各々が活用することで安全や楽しみに生活できるかを把握した上でボランティアや地域との関りをもてるように支援している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>基本的には施設かかりつけ医と連携しご家族の意向を理解したうえで支援している。その他訪問看護や薬局の方と来訪時に話したり往診時に情報提供して安心してご本人が生活できご家族の負担も軽減できるように支援している。</p>	<p>契約時に協力医療機関や訪問看護事業所との連携体制を伝え、かかりつけ医を決めている。月2回の訪問診療時は管理者が同行して指示を聞き職員間で共有している。家族が受診の同行をする場合は文面で情報提供をしておき、訪問療養マッサージに繋げる等、適切な医療が受けられるよう支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目(ユニット1)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	外部訪問看護と契約しているが週一回の訪問時に報告だけでなく些細なことでも随時報告して適宜指示を仰ぎ早期の対応やよりよい医療、生活が出来るように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医療機関に入院することも多く日々状況の変化があったり治療方法が変わる等あれば情報共有している。又基本的には早期退院を進めている。認知症の進行や心身状況の変化がみられることが多いので、それを入院時に事前報告するようにしご家族の意向も尊重して支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に確認している。又ご家族の意向が入居時と変わることもあるので契約時に十分な説明をしたうえでまずは意向の把握に努めている。	契約時に事業所の方針を文書で伝え、意向の確認をするが、状況変化により家族の気持ちに沿いながら再度確認を行っている。重度化や終末期は、医師の判断で医療機関に転院、或いは、看取りを行う場合は体制を整え、訪問看護師と連携しながらチームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	事故時の対応においては職員間で初期対応をどうするかカンファレンス等でも伝えて皆が同じようにできるように努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	災害時の訓練や備蓄品の把握は各委員会や訓練参加において皆が把握できるようにしている。又地域の協力も必要なので訓練時等お声掛けするようにしている。	年2回の災害消防訓練は利用者も参加し、夜間も適切に対応できるようマニュアルを元に訓練を行っている。ハザードマップを意識し職員間で避難方法を共有している。備蓄は本社と協力して揃える体制となっている。今後は避難訓練時の地域住民の参加や協力体制の構築に取り組む予定である。	

自己評価	外部評価	項目(ユニット1)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	ご入居者は人生における先輩でもあるので敬意を表しながら接することで接遇においても適切な支援が出来、又研修も実施している。	声かけは、一人ひとりの特性を理解し言葉の選択やトーンに配慮し、プライドを損ねない対応に努めている。定期的に自己チェックリストにて管理者と共に振り返り、不適切な対応があれば改善する為に全体会議を行っている。特に申し送り時や伝達する際はプライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	こちらで決めることなくどのご入居者においても答えやすい質問等工夫して自己決定できる環境の提供をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	認知症においてはご本人のペースに合わせる事が一番重要なのでそこは常に意思を尊重することが認知症ケアに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	起床時に衣類を選んで頂く等自己決定を優先しながら支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	毎日手作り食事を提供し、毎月御利用者に意見を聞きながらお楽しみ食事会や肉の日はお肉料理を提供し楽しんで頂けるようにしている。準備や片付けなども共同生活なので職員とご入居者が役割を持って共同で行っている。	3食とも手作りとし「肉の日」を決め、「お楽しみ食事会」では利用者と広告の写真を見ながら、お好み焼き等のリクエストに応じている。利用者は畑の野菜を採ったり、盛り付けや片付けに参加している。歯科医と相談しながら食事形態を検討する等、多様な食支援に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目(ユニット1)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>日々記録で水分や食事量を随時確認し、水分摂取できるようにどう支援するか考えて提供している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後の口腔ケアの実施又、口腔ケアができてないと誤嚥性肺炎の原因となるので歯科医と相談しながら適切な支援方法を提供している。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排尿や排便等間隔を概ね理解し適宜お声掛けしている。又現代ではできるだけオムツ使用を減らす様推奨されているのでトイレで排泄、食堂で食事する様な間隔で自立支援を行っている。</p>	<p>排泄時間や状況はタブレットで共有し、生活のパターンと合わせて声かけを行い、失敗を減らすよう支援している。排泄用品の使用は、個々の現状に合っているか適宜話し合っており、トイレ内の動作をサポートする左右の手すりや前傾姿勢支持型手すりが設置されており、排泄の自立支援に努めている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>高齢者においては便秘になりやすいので食事や飲み物等提供に工夫し下剤に頼るのではなく自然排便が出るように食事量と体操等の運動のお声掛けを行っている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>時間によって入りたい時間やそうでない時間もあるのでご本人の意思を尊重して又その時の気分でも違うのでそこは意識してお声掛けしている。</p>	<p>週2回を基本に、無理強い行わず、利用者の気持ちを察しながら声かけし、気持ち良く入浴出来るようチームで支援している。重度化した場合もリフト浴にて浴槽に浸かる事が可能となっている。本人がリフト浴より個浴を強く希望した場合、安全な介助方法等を話し合って要望に沿う事もある。</p>	

自己評価	外部評価	項目(ユニット1)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>年齢等加味して休んでいただく時間を提供、お声掛けし夜間も良く休まれる程度に休息の時間を提供している。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>基本的には内服薬は必要最低限にできるようにかかりつけ医と連携をとり支援している。又、なぜこの薬を内服しているか各職員が理解できるように情報共有し職員からもこの薬が必要か意見を集約し医療と連携を取っている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>お茶の先生をしている方や生け花が趣味の方もいるのでやりがいや生きがいを提供できるように行事として環境を提供している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>ご家族と外出や外泊できる環境を提供したり、散歩等で近隣の保育園児との交流等図れるように支援している。</p>	<p>徒歩や車椅子で近隣の散歩や畑に行き、外気や風景を楽しみ、個々にあった外出支援を行っている。家族協力による外出や孫の結婚式に参加する為、4泊の県外旅行を支援した事例がある。また、窓から見える桜や月の風景、運動会の練習をする保育園児など外の様子を見て楽しむ事にも取り組んでいる。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>玄関に駄菓子屋を開いているのでそこで好きなものを選んで頂いたりお金を使用できるようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(ユニット1)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	日課として毎日電話される方や毎月ハガキをご家族にお送りする等行っている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	毎月貼り絵をご利用者と職員で作成し季節感を感じて頂けるよう支援したり施設開設時も家庭的を意識し床の色等内装を意識している。	フロアの天井、床、居室の戸、六角テーブルは茶系に統一し明るい食堂と広い廊下を配し、職員の目配り・気配りが行き届き易い造りとなっている。調理の匂いで「腹減ったあ」と職員に話しかける等、自然な会話があり、ソファや思い思いのほぼ定まった席で塗り絵やラジオ体操など行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	フロア内でゆっくりしたいときはソファで過ごして頂いたり同テーブルで仲の良いご利用者同士でお話したり作業したりできる環境を提供している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	環境の変化によって不安を感じる方が多いのでご自宅の物をそのまま施設に持参頂きできるだけご自宅で過ごしていた環境に近いように入居時にご家族と話し合いを行っている。	使い慣れたタンス・テレビ・時計、大切な位牌・家族写真、落ち着くぬいぐるみ等を持ち込んでいる。配置は家族と相談して決めているが、動線や転倒予防などの安全に配慮し適宜、変更を助言している。居室入り口の表札は自筆で書く等、迷わない支援に取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	各職員でこの方はこれができるというのを情報共有してできるだけ自分で身の回りのことを数年後に行えるように支援している。		

V アウトカム項目(ユニット1) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き生きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(ユニット2)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	感染症対策は継続しているがようやく緩和してきて外に散歩すること等で近所の方々とあいさつ等少し交流はできる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している。	外部のイベントに参加等はあまりできないが施設玄関に駄菓子屋を開いており隣の保育園の親子連れや小学生等が買い物に来てくださりその方々にご利用者の関り、交流はできている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	上記のように小学生や親子連れが来られた時に認知症に関してやグループホームがどういうところなのかをお話して少しでも知って頂けるように努力している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	地域包括の方、民生委員、病院、薬局の方など参加して頂き様々な分野の方々が集まることで多様な情報収集ができ、又各自意見も徴収して事業所単体だけでなくかかわりがある方々と一緒によりよい施設作りが出来るように支援している。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	行事の開催等で確認の電話ややりたいことを伝えそこでより良い助言を頂けている。		

自己評価	外部評価	項目(ユニット2)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束適正化委員会も運営推進会議毎に開催している。又身体拘束あたる行為を職員全員が理解しなければならない点を含め年間研修スケジュール参照して研修も実施している。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>身体拘束と同様施設系は虐待防止することが大切で職員間でも注意し合える職場環境作りと知識を構築していき、支援方法も悩む職員もいるので管理者に相談してより良い支援を行っている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>成年後見制度を利用されている方もいるので管理者、職員共に理解してよりよい支援を行っている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>専門的なことになると中々理解が難しいと思うのでご家族と話す機会を持ちその都度わからないことがないか確認するようにし誰でもが分かりやすいように例を挙げる等できるだけ理解できるように説明している。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>ご家族面会時等管理者や職員がご家族とコミュニケーションを図り、ご利用者の生活状況を説明、理解して頂いた上でご家族より生活の上での要望をお聞きし可能な限りご家族とご利用者の満足いくように図っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(ユニット2)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員とは面談等定期的に行い立場関係なく皆の意見を集約し少しでもよりよい運営できるようにチームケアを意識して支援している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	法人規模が大きいため個々で給与水準等変更は難しいがほめカードというものがあいいところを見つけて手紙のようなものを渡している。勤務時間の調整や残業等個々の要望を理解し反映している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	誰もがリーダーになれるという経営理念もあり研修や知識向上できる環境も提供し介護だけでなく人間性も向上できるように研修過程も築けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	同業者との関りはあまり持ててないが運営推進会議等相互参加するなど相乗効果できるように取り組みを考えている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前のアセスメントにて本人やご家族のご要望を事前に聞き取り入居において不明な点を説明し安心して入居できるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目(ユニット2)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	上記同様で、利用開始から利用中ももちろん入居においてわからないことも多々あると思うのでご家族とコミュニケーションをとりながらご本人が安心して過ごせるように支援しご本人の生活も伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	事前にどのように生活してほしいかを共有する。又ご本人の意思疎通が難しい場合はご家族の意志を尊重しながら生活できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	グループホームにおいては共同生活なので職員とご入居者が家庭的な生活を送ることが大事。介護しているという感覚ではなく対等な関係性を保ち敬意をもちながら接することを意識している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族間の関係性は他者にはできないことなので入居されたらご本人、ご家族、施設共同で支えあい少しでも家族に近い存在になれるように関係性構築していく。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	例えば入居前まで通っていたいきつけの場所（美容室等）を継続して通える環境作り、又馴染みの人との関りを面会等通して継続するなど関係性を入居して途絶えない様に支援している。		

自己評価	外部評価	項目(ユニット2)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	9名のご入居者各々個性がありますが関わり合い交流することで生きがいも生まれるのでそこは意識して支援している。又基本的にはフロアで過ごす方が多いので一緒に作業したり話したり共に生活していることを大事にできるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	入院して退居になる方等必要に応じて状況確認し今後の支援先等の提案をしてご家族も安心できるようにしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	基本的にはご本人の意向を理解して支援している。状況に応じて難しい状況、施設で対応が困難な時はご本人、ご家族と協議の元より良い策を提案させて頂きその時のベストな生活ができるように支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	事前面談にて生活歴等の把握には努めている。その情報の元施設でできることを職員間やご家族と話し合い施設生活でもできることを把握して。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ご本人の残存機能を継続的に生かせるようにしている。少なくとも介護側ができないと決めつけずに少しでもできる事を日々お声掛けしている。		

自己評価	外部評価	項目(ユニット2)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>担当者会議はもちろんその時だけでなく日々課題や支援方法をカンファレンス等で話し合い状況に応じて臨時カンファを開き早期に解決できるように努めている。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の申し送りで情報共有し、細かなことも記録参照し、ケアマネージャーと協議し必要に応じてプランの変更やよりよい支援に繋げている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>ケアにおいては固執せず、状況に応じて変更している。日々状況変化が生じるのでその時にどう対応するか職員全員が対応できるように取り組んでいる。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域資源の活用は地域の方や地域包括様々な分野の方からの情報で把握しご利用者各々が活用することで安全や楽しみに生活できるかを把握した上でボランティアや地域との関りをもてるように支援している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>基本的には施設かかりつけ医と連携しご家族の意向を理解したうえで支援している。その他訪問看護や薬局の方と来訪時に話したり往診時に情報提供して安心してご本人が生活できご家族の負担も軽減できるように支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目(ユニット2)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	外部訪問看護と契約しているが週一家の訪問時に報告だけでなく些細なことでも随時報告して適宜指示を仰ぎ早期の対応やよりよい医療、生活が出来るように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医療機関に入院することも多く日々状況の変化があったり治療方法が変わる等あれば情報共有している。又基本的には早期退院を進めている。認知症の進行や心身状況の変化がみられることが多いので。それを入院時に事前報告するようにしご家族の意向も尊重して支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に確認している。又ご家族の意向が入居時と変わることもあるので契約時に十分な説明をしたうえでまずは意向の把握に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	事故時の対応においては職員間で初期対応をどうするかカンファレンス等でも伝えて皆が同じようにできるように努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	災害時の訓練や備蓄品の把握は各委員会や訓練参加において皆が把握できるようにしている。又地域の協力も必要なので訓練時等お声掛けするようにしている。		

自己評価	外部評価	項目(ユニット2)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	ご入居者は人生における先輩でもあるので敬意を表しながら接することで接遇においても適切な支援が出来、又研修も実施している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	こちらで決めることなくどのご入居者においても答えやすい質問等工夫して自己決定できる環境の提供をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	認知症においてはご本人のペースに合わせる事が一番重要なのでそこは常に意思を尊重することが認知症ケアに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	起床時に衣類を選んで頂く等自己決定を優先しながら支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	毎日手作り食事を提供し、毎月御利用者に意見を聞きながらお楽しみ食事会や肉の日はお肉料理を提供し楽しんで頂けるようにしている。準備や片付けなども共同生活なので職員とご入居者が役割を持って共同で行っている。		

自己評価	外部評価	項目(ユニット2)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>日々記録で水分や食事を随時確認し，水分摂取できるようにどう支援するか考えて提供している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後の口腔ケアの実施又，口腔ケアができてないと誤嚥性肺炎の原因となるので歯科医と相談しながら適切な支援方法を提供している。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排尿や排便等間隔を概ね理解し適宜お声掛けしている。又現代ではできるだけオムツ使用を減らす様推奨されているのでトイレで排泄，食堂で食事する様な間隔で自立支援を行っている。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>高齢者においては便秘になりやすいので食事や飲み物等提供に工夫し下剤に頼るのでなく自然排便が出るように食事量と体操等の運動のお声掛けを行っている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>時間によって入りたい時間やそうでない時間もあるのでご本人の意思を尊重して又その時の気分でも違うのでそこは意識してお声掛けしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(ユニット2)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	年齢等加味して休んでいただく時間を提供、お声掛けし夜間も良く休まれる程度に休息の時間を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	基本的には内服薬は必要最低限にできるようにかかりつけ医と連携をとり支援している。又、なぜこの薬を内服しているか各職員が理解できるように情報共有し職員からもこの薬が必要か意見を集約し医療と連携を取っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	お茶の先生をしている方や生け花が趣味の方もいるのでやりがいや生きがいを提供できるように行事として環境を提供したりしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	ご家族と外出や外泊できる環境を提供したり、散歩等で近隣の保育園児との交流等図れるように支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	玄関に駄菓子屋を開いているのでそこで好きなものを選んで頂いたりお金を使用できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目(ユニット2)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	日課として毎日電話される方や毎月ハガキをご家族にお送りする等行っている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	毎月貼り絵をご利用者と職員で作成し季節感を感じて頂けるよう支援したり施設開設時も家庭的を意識し床の色等内装を意識している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	フロア内でゆっくりしたいときはソファで過ごして頂いたり同テーブルで仲の良いご利用者同士でお話したり作業したりできる環境を提供している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	環境の変化によって不安を感じる方が多いのでご自宅の物をそのまま施設に持参頂きできるだけご自宅で過ごしていた環境に近いように入居時にご家族と話し合いを行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	各職員でこの方はこれができるというのを情報共有してできるだけ自分で身の回りのことを数年後も行えるように支援している。		

V アウトカム項目(ユニット2) ← 左記()内へユニット名を記入願います

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームたのしい家安佐南

作成日 令和6年6月19日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	地域との関りが現状少ない。	まずは近くの保育園等と交流。	互いに行き来しやすい環境作り。行事の案内や相互参加できるように関りを作る。	1年
2	13	現状管理者不在だと機能しないことがおおい。	一人一人が自立できるようにする。又リーダー層に慣れるよう育成。	各々が考えて行動するように意識付け。知識の向上や研修の参加ができる環境作り。	1年
3	40	食を楽しむ。現状よりも機会が増えるよう支援。	ご利用者各々の希望を尊重し計画する。	提案の仕方、選択しやすい方法を考えて意思を理解尊重する。	随時
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。